



亀山島

エコツアー

地質地形＋自然生物＋人文地景



交通部観光署
東北角および宜蘭海岸国家風景区管理处
Northeast and Yilan Coast National Scenic Area Headquarters, Tourism Administration,
Ministry of Transportation and Communications

住所：228 新北市貢寮区福隆里興隆街36号
tel：02-24991115 fax：02-24991170
url：https://www.necoast-nsa.gov.tw
フリーダイヤル：0800-091-115
烏石港ビジターセンター電話：03-978-9078
ホエールウォッチング協会電話：03-977-0606

交通情報

マイカー

1. 国道一号・汐止JCTから国道五号・頭城ICから濱海公路を経て烏石港。港から船で亀山島へ。
2. 国道三号・南港JCTから国道五号・頭城ICから濱海公路を経て烏石港。港から船で亀山島へ。

公共交通機関

1. 鉄道：「外澳駅」で下車し海辺の歩道を徒歩で約15分。烏石港から乗船。
2. 市バス：「頭城駅」「宜蘭ターミナル」から台湾好行バス壮围砂丘線【緑18】で烏石港へ。または「礁溪转运站」で台湾好行バス宜蘭東北角海岸線【緑19】で烏石港バス停。台湾鉄路「礁溪駅」で宜蘭勁好行(平日は【131】休日は【紅11】)で蘭陽博物館または烏石港へ。下車後烏石港より乗船。
3. 長距離バス：国光バス【1877】(圓山-烏石港)・国光バス【1766】(南方澳-烏石港)を利用。下車後烏石港より船で亀山島へ。

開放期間

1. 毎年3月1日-11月30日の09:00-17:00。原則毎日9:00～17:00 詳細につきましては亀山島上陸システムにお問い合わせください。
2. 災害その他不可抗力の事態が発生した時は、当処オフィシャルサイトに島の封鎖を公示します。

島への上陸は定員制

月曜・火曜および木曜・日曜は一般開放。一日定員1800名。水曜は学校による自然教室・生態あるいは環境研修に限り、定員は500名。

登山申請方式

亀山島への上陸および401 高地登頂はネットによる申込受付。登島前11 日-20日以内に亀山島上陸システムサイトより申請。画面の指示に従い手続きを進め、受理番号を取得し登島10 日前までに人数を確定。受理番号と名簿を携帯し乗船。海外からの旅客はパスポートを携帯すれば随時乗船できる。401 高地登頂は亀山島への上陸申請のほか別途申請し401 高地登頂番号を取得のこと。一日100人限定。かつ午前中の上陸のこと。

証明書類審査

台湾人は写真付きの証明書類を準備して出港前に審査を受けてください。海外からの旅客は定員に含めず、パスポートあるいはパスポートに相当する証明書類を用意して審査を受ければ乗船できます。401高地登頂のツーリストおよびガイドは入口で検査を受けなければ進入できない。
＊亀山島上陸および401高地登頂申請に関する詳しい情報は亀山島上陸システムサイトを参照。



112.12.3000 簡易

美しく可愛い海上の生態公園

亀山島は東西約3.3キロ、南北約1.7キロ、面積約2.85平方キロで、海岸線の長さは約10キロです。海上・陸上を問わず、亀山島が見えれば、宜蘭に来たという感じがします。

亀山島は宜蘭県頭城鎮烏石港より東に約10キロの位置にあり、遠くから眺めると巨大な亀が浮いているように見えることからこの名があります。かつて人口700人以上を数えていましたが、生活に困窮するなどして、1977年に政府が出資して頭城鎮大溪に106世帯の住宅を建て、全島民が移住しました。はじめは「仁澤社区」という名称でしたが、長年の申請が通り、2001年に亀山里となり、地区名も「亀山社区」と改称されました。

島民が移住したあとは軍が駐屯していましたが、2000年に観光のため一般開放が始まりました。今も住民はわずか、この二十数年間、島への立ち入りが禁止されていたため、亀山島では暮らしの足跡とともに自然の姿と豊かな生態系が守られてきました。



「生命之島」「豊富之旅」

烏石港を出発すると、美しさと驚きを発見する亀山島への旅が始まります。30分の所要時間で、途中でイルカと相遇する幸運に恵まれるかもしれません。亀山島を巡ると、火山が形作った独特の地質景観が待っています。切り立った崖や鮮やかな岩層。くっきり色分けされた海の色も感動的です。亀山島に上陸したら、高地の生態系を訪ねるだけではなく、山と緑が美しい亀尾湖の湖畔の風景や文化・歴史もじっくり味わってみることをお勧めします。静かで落ち着いた素朴な美しさを体験し、感じてください。



海上でイルカとの出会い

黒潮が流れる亀山島の沖合は、海洋資源が豊かで台湾三大漁場の一つになっているほか、ホエールウォッチングの名所としても知られています。出没するクジラやイルカの種類はハシナガイルカ・ハンドウイルカ・ユメゴンドウ・オキゴンドウをはじめ17種に達します。イルカたちは海面に顔を出したり、漁船とかくれんぼをしたりします。

亀山島海域のホエールウォッチングシーズンは5月から10月末までです。興味のある旅客の方はぜひご参加ください。ホエールウォッチングの際はイルカ・クジラの保護と旅の安全のためにイルカマークのついたボートを利用してください。またイルカたちへの餌付けは禁止されています。スケジュールには通常、ホエールウォッチングのほか亀山島遊覧(あるいは亀山島上陸)がアレンジされています。ご検討ください。



位置図 (台湾島・亀山島位置図)

亀山八景を巡る

亀山島では「亀山八景」が有名な風景です。なかでも気象景観の「亀山朝日」と「神龜戴帽」がよく知られています。その他の六景は火山と波の浸食により形成された特殊な地質景観です。「龜卵傳奇」は引き潮のときに島の西南方約5キロ地点に二つの長方形の岩礁が出現しましたが、しかし1943年に原因不明の地響きとともに一夜にしてその岩礁が消失し、それ以降姿を見せなかったということです。



眼鏡洞

亀山島の南端に位置している島で最も有名な海蝕洞。遠くから見ると眼鏡のように見えることからこの名がついています。破碎された火山岩でできています。

神龜戴帽

天気の変わり目に亀山島の上空に雲や霧が漂々と立ち込めることがあります。これは「亀山が帽子をかぶると、大雨が降る」という言葉があり、まもなく大雨が降るという予兆とされています。



亀岩巉壁

溶岩が冷却されてできた特殊な地質構造です。401高地と亀甲の西北面に露出した岩壁に見られ、板状節理と垂直柱状節理からできています。

亀山朝日

亀山島の亀の首にあたる部分は東向きです。朝日が亀の顔に向かって昇ってくることから、亀がご来光を拝しているように見えます。天気がいいと、彩雲が満ちて絢爛たる風景となります。



海底温泉

亀山島東部海域では白い気泡が海中より湧出し、海水の表面は青色と白色が混濁した色を見せます。極めて特殊な温泉の景観で、海上で島の周囲を巡る時、401高地に登った時にはっきり見ることができます。

靈龜擺尾

亀尾は、自然に形成された長さ1キロに達する角のある火成岩である安山岩の石浜です。冬・夏の季節風、海潮の変化とともに南北に移動します。



亀島硫黄煙

亀山島は火山の働きで大量の硫黄が埋蔵されています。亀首の南岸と北岸一帯は火山ガスの噴気孔と硫黄ガスが噴出する噴気孔があり、現在も活動している噴気孔からは大量の硫化水素と二酸化炭素が噴出している。

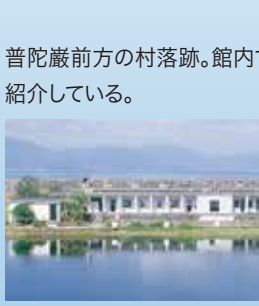
亀尾の景観。湖水一周のハイキング。



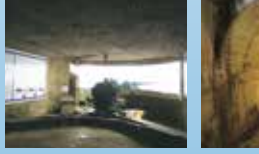
・北岸ハーバー
陸地と結ぶ架橋は亀山島への玄関口です。



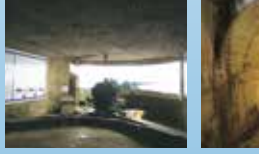
・亀尾燈台
亀尾の石浜にいまは照明設備はない。



・亀山島生態展示館
普陀巖前方の村落跡。館内では亀山島に残る史跡や生態の特色を紹介している。



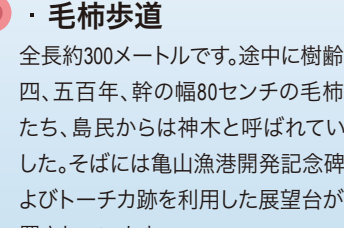
・軍營
かつての亀山国民小学校跡です。現在は海巡署の宿舎になっています。



・軍事坑道
全長約800メートル、高さ約3.5メートル、幅約3メートル。内部に七つの砲台陣地と一つの機銃陣地があり、本島東北角海域および蘭陽平原の安全を守る重要な役割を担っていました。



・普陀巖
「拱蘭宮」と称されていた媽祖廟で、1845年の創建と伝えられています。島民移住の際に神像は頭城鎮亀山里に移されました。現在の廟は1966年に再建されたもので、軍により觀世音菩薩が祀られ、普陀巖と改称されました。



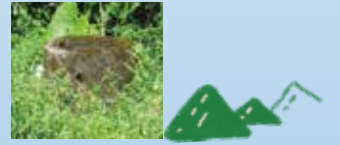
・毛柿步道
全長約300メートルです。途中で樹齢約四、五百年、幹の幅80センチの毛柿がたち、島民からは神木と呼ばれていました。そばには亀山漁港開発記念碑およびトーチカ跡を利用した展望台が設置されています。

・古井
環湖歩道そば、毛柿歩道入口の井戸水はアカギ林下方の岩壁からしみ出す湧水で、かつては島民の日用水だった。

・環湖歩道
亀尾湖畔に設置された全長約650メートルの遊歩道です。沿路は風光明媚で植物の生態が豊富なほか、乗龍觀音像や冷泉などの風景が楽しめます。遠くには台湾で唯一といわれる原生の蒲葵(ピロウ)林が見えます。亀尾湖はもともと海に接していたことから「亀山漁港」の石碑が残っています。

普陀巖

「拱蘭宮」と称されていた媽祖廟で、1845年の創建と伝えられています。島民移住の際に神像は頭城鎮亀山里に移されました。現在の廟は1966年に再建されたもので、軍により觀世音菩薩が祀られ、普陀巖と改称されました。



亀山島全図



亀尾案内図



401高地。自然生態観察

1,401高地に登る階段は全長約1400メートル、1706段に達する。海拔398メートルの地点に高さ3メートル、二階建ての展望台(軍の監視所跡)が立つことから、この名がある。沿路の生態は豊富で、ちょっとした登山気分が味わえる。



2途中、200段目と1000段目に東屋が設置され、速くに亀尾の美景が望めます。



3,500段目から600段目の途中、右手に清代咸豐8年の古墓があります。「皇清」の文字がはっきり刻まれていて、その時代、亀山島に人が住んでいたことを証明するものです。

4,1706段の階段を登りきると、絶景が待っています。亀山島の全貌が俯瞰できるばかりか、亀首の毛や色に分かれた海、亀首潭もはっきり見えるたいへん美しい風景が目前に広がります。往復に2-3時間かかるので、出発前に飲料と軽食を用意しましょう。



台湾の縮図のような植物の楽園

亀山島は東北の季節風の影響を受けつつも、周辺を黒潮が北上し、気候温暖で雨が多い。そのため植物の生態が多様で、熱帯・亜熱帯・暖温帯および涼温帯の生態が共存する。水源地には幹の幅が80センチを超える毛柿の樹がたつ。台湾では北限の毛柿ともいえる。断崖地区には、台湾で唯一、天然のピロウ林が広がる。亀山島にはかつて開発の手が入った。しかしその面積は狭く、海拔260メートル以上はほぼ原生森が残る。また平地は1977年以降耕作が放棄されたあとに形成された二次天然林である。島上の植被は以下のように分類できる：

海岸植被：海に接する部分です。強風や塩分に強い植物が多いです。毛柿（*Diospyros strigosa*）・トウツルモドキ・ハマゴウ・ハマボッサ・マンネングサ・ミブクラギ・シマフジバカマなどがあります。

耕作放棄地の植物群：亀尾平地、すなわち海辺から森林との境界まででは、かつて人間が暮らしていた場所です。海に近いことから海岸の植被に相似しています。もともとイワダレソウ・マンネングサなどが中心でしたが、長期にわたる人による除草が行われたことから、他の地区の植被とは異なり現在はクマツヅラ・磚子苗（イヌクグの仲間）ほか草本、つる性植物が繁殖しています。これは他の植被では珍しいものです。

二次山林：主に島の西部、北部の海拔260メートル以下の広葉樹林です。人間による干渉があった後に回復した二次林で、フカノキ・相思樹・ヒカゲヘゴ・桂竹など、台湾北部低海拔の山林と極めてよく似ています。

風衝林：海拔260メートル以上から最高峰401メートルまでの植物群は、東北の季節風の影響を避けるために、全体に背が低く、灌木化しているものが多いです。ナガバイヌツゲ　・厚葉衛矛（ニシキギの仲間）・シャシャンボ・アセビ・タイミンタチバナ・ピロウなど温暖帯の植物も少なくありません。

毛柿 *Diospyros philippensis*

カキノキ科カキノキ属の常緑高木。葉は莖が短く、互生で深緑色をしており、皮革のような質感で光沢があります。花は黄白色で果実はほぼ球形、成熟すると橙色になります。島の毛柿の大樹は幹の幅が80センチを超えています。

トウツルモドキ *Flagellaria indica*

つる性の多年草で、葉の莖は無く、皮革のような質感で、先が尖っています。葉の先端は髭状で、他の植物を伝いながら上っていく点が特徴です。花は白色で、果実は球形。成熟すると赤くなります。

▲トウツルモドキの葉（左図）花（右図）

渡り鳥の中継地

亀山島上で見かける鳥類の大部分は渡り鳥。亀山島は越冬のため春や秋に越境する際、休んだりエサを探したり、体力を蓄える海の補給所です。現在確認されている鳥種は百種を超えています。が、なかでも目立つのはヒヨドリです。台湾が産地ではありませんが大量に分布しているもともと優勢な種です。日本列島と沖縄諸島から亀山島・緑島・蘭嶼、さらにはフィリピンまで広範囲に分布していますが、このために台湾と隔てられて沖縄の鳥類の要素があります。

豊かな自然生態

亀山島上の両生類は、ヘリグロヒキガエル・　バンコロヒキガエル・ラトウチハヤセガエルなど、爬虫類はタイワンハブ・アマガサヘビ・シュウダなどを401高地への遊歩道上でよく見かけます。昆虫は多様で、特に蝶の種類が豊富で、アサギマダラ・オオゴマダラ・コジャノメがよく見られます。また海洋生態は多彩で、黒潮により魚が豊富で、美しい珊瑚礁にも恵まれています。亀山島固有のニシノシマホウキガニは強酸硫酸で高温の海底湧泉付近に棲息し、一万匹以上の個体数があり海底の珍しい風景となっています。

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis harterti Kuroda*

ヒヨドリ科の留鳥。体長は約26センチで全身は暗褐色。島上の優勢種で、ピーコと大きな声で鳴くものの、樹林にいるため、その姿は容易は見出せない。

ウ *Phalacrocorax carbo*

ウ科の一般的な冬の渡り鳥で体長は約82センチ。ほぼ全身が黒く光沢があります。くちばしが厚く、ほほやのどに白い部分があります。繁殖期には首や頭部に白い飾り羽が出ます。群れを成し、隊列を組んで飛行します。

アカガシラサギ *Ardeola bacchus*

サギ科。春の渡り鳥。夏季に頭から頸部にかけて赤褐色、嘴や脚が黄色く変色します。冬は胴体上部が黒褐色の羽毛で被われます。通常集団で亀山島に立ち寄りますが、台湾本島ではめったに見られません。

▶アカガシラサギ

▲ウ

クサトベラ *Scaevola sericea*

クサトベラ科の常緑低木。葉は互生。卵を逆にしたような形の葉は厚く、水分をよく含み、表面に細かい毛をもっています。夏季に白い花を咲かせます。果実は成熟すると白色になります。

ケコンロンカ *Mussaenda parviflora*

アカネ科コンロンカ属の半蔓性の低木。葉は互生、楕円形で先が尖っています。莖は木質の蔓状です。5月-8月に黄色い筒状の花を咲かせます。がくの1片が葉と同じ大きさに育ち、純白になりますが、徐々に黄みを帯びていきます。

琉球澤蘭 *Eupatorium luchuense* var. *kiruanense*

キク科の多年生直立草本。『基隆澤蘭』とも呼ばれる台湾固有種です。単葉で、葉は分厚く、広い卵形をしています。頭状花序花で細かく密集し房状をなし、白色から淡い紫色を帯びています。花期は4月-6月および10-11月です。

イワダレソウ *Phyla nodiflora*

クマツヅラ科で匍匐性の多年生草本。地面に貼りついて四方に広がるようで、葉の付け根から花柄が伸びて先端に円筒状の花序をしています。

マツバラン *Psilotum nudum*

マツバラン科、寄生性のシダ類に分類されます。葉は極めて小さく、鱗状で、遠くから見ると松葉に見えることからこの名がつけました。地上部の茎にある胞子嚢は成熟すると黄色になります。ヒカゲヘゴなどの気根などに寄生している。

石板菜（マンネングサの仲間） *Sedum formosanum*

ベンケイソウ科の多年生草本。葉は粒状あるいは棒状で密集しています。花期は3月-5月で黄色い花が密集しています。生育力が強く軍営そばの草地に繁茂します。

茅毛珍珠菜（ハマボッサの仲間） *Lysimachia mauritiana*

サクラソウ科の二年生草本。台湾原生種。多肉植物で、葉は互生で厚く、光沢があります。春から夏にかけてピンク色の花を多く咲かせます。



▶ハマボッサの果実



▲クサトベラ植株



▲クサトベラの花と果実



▲ケコンロンカ



▲ケコンロンカの果実



▲シマフジバカマ植株



▲シマフジバカマの花



▲イワダレソウ植株



▲イワダレソウの花



▲マツバラン



▲マンネングサ群落



▲マンネングサの花

台湾アセビ *Pieris taiwanensis*

ツツジ科の常緑低木。卵形の葉が枝の先に群生する。花は白色で、連なるように垂れ下がる。実は毒性があり食用に適さず。

ナガバイヌツゲ *Ilex maximowicziana*

モチノキ科の常緑高木。葉は半円形でのこぎり歯をもちます。白く小さい花をつけます。

タイワンツルアジサイ *Hydrangea angustipetala*

灌木。花期は2月-4月。花弁に見える白色はがくで本当の花は黄色です。暖温帯森林に育ちます。

シャシャンボ *Vaccinium bracteatum*

ツツジ科の常緑小高木。若い枝には光沢があり、葉は長い楕円形をしていて、互生で厚みがある紙質です。花は白色です。

ピロウ *Livistona chinensis* var. *subglobosa*

ヤシ科の常緑高木。葉は幹の先端から扇形に裂けるように広がり、縁に棘をもつ。花は輝く黄色で穂をなすように小花が垂れ下がる。果実は長めの楕円形で、成熟すると黒褐色を呈する。

台湾百合 *Lilium longiflorum* var. *formosanum*

百合科の多年生球根植物。葉は緑色で細長いです。春夏に開花し、花は頂生で単一から数個咲きます。花は乳白色で、外側にワイン色の筋をもち、芳香があります。台湾固有種です。4月から5月に島の随所に花を咲かせます。島にあるもう一種の「鉄砲百合」は葉がやや短く、花は表裏ともに乳白色です。



▲台湾百合



▲台湾アセビの花



▲ナガバイヌツゲの花



▲ナガバイヌツゲの果実



▲タイワンツルアジサイ



▲シャシャンボ



▲亀山島の天然ピロウ林



▲台湾百合

時間を記憶する岩石層

亀山島は地質構造的に琉球海溝の西南端に位置し、琉球弧と交差する。沖縄海溝のプレートの活動により海底火山が旺盛で、亀山島東方約50キロから100キロの海域内に少なくとも六・七十の海底火山が確認されている。亀山島は周辺で唯一海上に露出している火山である。地質は主に安山岩質の熔岩流と火山砕屑岩が交互に堆積したもので、この7000年間に少なくとも4回の火山活動があったとみられ、まだ若い年齢の島である。全体は亀首・亀甲・亀尾という三つの部分に分かれ、海蝕洞・石浜のほか亀尾湖・亀卵などと呼ばれる豊かな地形の景観を擁する。亀甲南端の401高地が海拔最高点にあたり、太平洋の美しい海の景色が眺望できる。

・亀首

島の東側にあたり、尖った楕円状をしています。最高海拔は239メートル。底部に硫黄や火山ガスの噴気孔があき、付近の岩壁は強烈な熱水の影響を受けて、黄色あるいは土褐色に変色しています。風化作用により岩層の強度が弱く、傾斜部ではたびたび崩落が発生しています。海底からの湧泉と潮流によって海水の色は激しく変化します。401高地から亀首方向を望むと、その壮麗な変化が観賞できます。



▲亀首

▼亀首周辺海域は海の色が激しく変化する



・亀甲

島の主体を成す部分。最高海拔は398メートルで、観景亭の3メートルを足して401メートル。俗に「401高地」といわれる由縁である。南側は斜度45度以上の断崖を呈し、火山砕屑岩により構成される。北側の斜度は約30度。熔岩流が流れたままに扇形を呈する。東側および西側は熔岩流により切り立った地形を成している。

・亀尾

島の西側にあたり、最高海拔は141メートル。島上の唯一平坦な地域です。ここに形成されている全長約1キロの細長い砂嘴は、安山岩が侵蝕された後にその砂礫が堆積したとみられ、季節風および海流の影響を受けて南北に移動します。亀尾と、島の主体である亀甲との間にある亀尾湖は、もともと天然の漁港でしたが、台風により山が崩れて港の入り口がふさがれ、現在は湖となっています。

・海蝕洞

主に亀山島南端および亀首一帯に分布しています。長期にわたる波の浸食を受け、海面の岩壁に並ぶように海蝕洞が形成されました。なかでも最も有名な「眼鏡洞」は、海から見たと眼鏡に見えることから、この名で呼ばれています。

・石浜

亀山島の海岸線の多くは石浜です。これは主に風化して崩落した安山岩が波に運ばれて堆積したものです。いずれも摩耗により卵型となり、主に亀尾と東北および西北側の海辺一帯に分布しています（これらの卵石は島の特殊景観のため、持ち出しは禁止です）。

・岩礁

亀山島でわずかに亀甲南端に険しい岩礁が発現できる場所。山の崩落により堆積した岩塊で、海上の船からのみ観察できる難所だ。



▶岩礁

▲亀尾の石浜